

千草台団地線

で行く バスの旅

ご乗車ありがとうございます。

お乗りの千草台団地線は、西千葉駅2番乗場を起点に、ゆりの木通を直進し、千葉都市モノレールの作草部駅を左折し、国道126号をしばらく直進、やがて右折し千草台団地を終点とする、片道約12分の往復運行をしています。

路線の左右に広がる車窓には、かつて軍都千葉と呼ばれたほど軍の施設が密集していました。戦後、その跡地は学校や公園、住宅地となり、平和な街に生まれ変わりました。

路線の周囲には、戦争遺跡や歴史的に貴重な五輪塔、石碑も点在し、この地域に生きた名もない人々の記憶を生き生きと呼び戻させてくれます。

千葉都市モノレールの作草部駅周辺は、平安時代中期(931~938)に作られた辞典「和名類聚抄」に「千葉郡三枝郷今都賀村に大字作草部あり」と記載されており、6世紀頃には皇室の直轄領で三枝部の部民の居住地だったようです。

付近の発掘調査でも縄文・弥生・古墳時代の遺跡などが多数報告されています。

現在の街並みの中に微かに漂う歴史の残り香を感じながら、バスの旅をお楽しみ下さい。

大正二(1913)年、大正天皇が行幸になりこの地を「天覧台」と呼びました。昭和二十六年(1951)年、天台と町名を変更。

千葉都市モノレール懸垂型モノレールとしては世界一の長さとなり、ギネスブックにも正式に登録されています。

千草台団地 1966(昭和41)年入居開始 千葉の「千」と作草部の「草」として団地名

慶応三(1867)年、作草部神社と奉祀されました。

縄しほり塔 享和元年(1801)カゼとひとと塔を縄しほりし、しほり縄をとりておれおるといふ

古墳時代末期(7世紀後半頃)、千葉県内の彩色石室(内部全体が赤色)が出土しました。

庚申塔 宝永二年(1705)背面金剛像が邪鬼を踏んでいます。

鉄道連隊演習用に明治四一(1908)年、鉄道連隊の椿森移転以来、千葉公園は演習地となりました。

千葉経済学園 昭和八(1933)年、経営開始 新1万円札の顔、渋沢栄一の「片手に論語、片手にソロバン」と理想

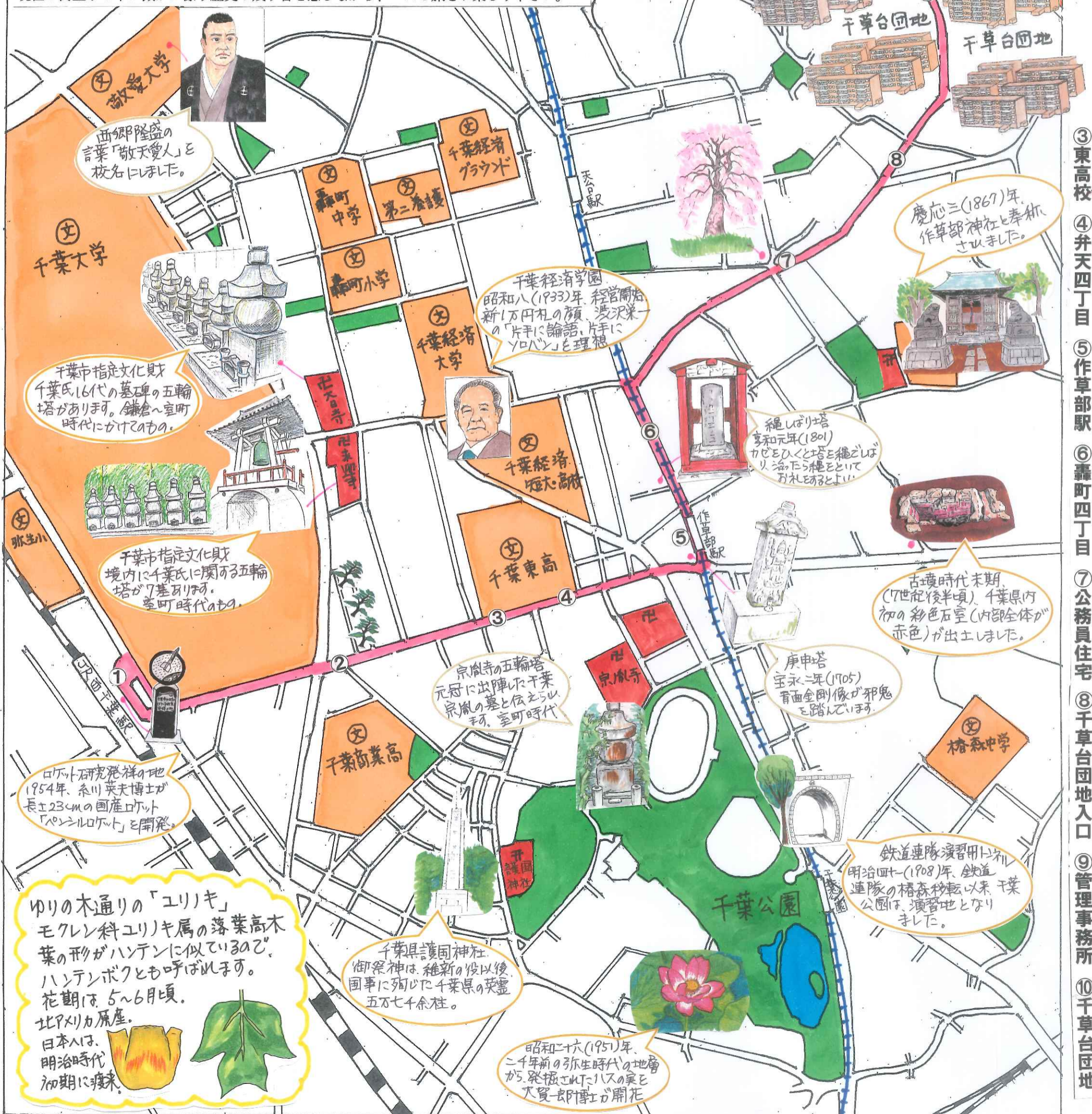
千葉経済大 宗廟寺の五輪塔 元寇に出陣した千葉宗胤の墓と伝えられ、室町時代

千葉東高 千葉市指定文化財 境内に千葉氏に関する五輪塔が7基あり、室町時代のものであ

千葉県護国神社 御祭神は、維新の役以後、国事に殉じた千葉県の英霊 五万七千余柱。

昭和二十六年(1951)年、二千年前の弥生時代の地層から発掘されたアサガハの葉を大賀一郎博士が開花

- ①西千葉駅
- ②松波県住
- ③東高校
- ④弁天四丁目
- ⑤作草部駅
- ⑥轟町四丁目
- ⑦公務員住宅
- ⑧千草台団地入口
- ⑨管理事務所
- ⑩千草台団地



ゆりの木通りの「ユリキ」モクレン科ユリキ属の落葉高木葉の形がハンテンに似ているので、ハンテンボクとも呼ばれます。花期は5~6月頃。北アメリカ原産。日本へは、明治時代初期に渡来。

